

飯山市総合計画等評価検証委員会 会議概要

1 会議名	令和7年度(2025年度)第1回 飯山市総合計画等評価検証委員会
2 日時	令和7年10月29日(水)10時00分～11時53分
3 会場	飯山市役所 3階 31号会議室
4 委員出席者 (順不同)	本間委員、小嶋委員、阿部委員、片山委員、庚委員、常田委員、大口委員 ※欠席:上村委員、西川委員、岡村委員
5 市出席者	市長、総務部長、企画財政課長、企画調整係長、企画調整係主査
会議事項等	
1 開会	(進行:企画財政課長) この会議は、これまで総合計画を審議する審議会の中に専門部会という形で設置していましたが役割等が明確ではないことから改めて総合計画を評価検証する委員会として組織しました。会議内容については会議概要を作成しまして、ホームページで公開いたします。本日は3名の方が欠席です。それでは次第に沿って進めさせていただきます。初めに市長から挨拶をお願いします。
2 あいさつ (市長)	市長あいさつ
3 委嘱状交付	時間の都合もございますので、委嘱状はお手元に配布させていただきました。
4 自己紹介	
5 飯山市総合計画等評価検証委員会について	・資料1 (資料と設置要領に基づき事務局で説明) →質問・意見等なし
6 会議事項	(1)飯山市第6次総合計画について ・資料2 (資料に基づき事務局で説明) →質問・意見等なし (2)意見交換 テーマ「人口減少対策(若者、女性、子ども)について」 ・資料3, 3-2, 4 (資料に基づき事務局で説明。その後意見交換)
	(企画財政課長) 現状を説明させてもらいました。今回は人口減少対策をテーマに意見交換をしていただきたいと思います。自由な意見ををお願いします。 (委員) 飯山市では出産できない。出身は神奈川県で妻はこちら出身で6年前に移住した。一人目は里帰り、こちらで生まれてその後こちらに来て中野市の病院で生まれた。

(市長)

日赤の産科を復活というのは医療界の現実を見ると厳しい。市では、心配を少しでもなくすよう助産師を確保していこうとやっている。

(委員)

夏の自然体験で都心から来る子どもたちがいるが、何かあったときに地元の病院で診てもらえないのは心配。自分の子が小さい時も救急で診てもらえなかったのは不安だった。また、小学校が統合して校区が広くなり、クラブに行くにも遠くから親の送迎で参加している。仕事や親の都合でやりたいことをやらせてあげられない人もいる。学校のクラブがなくなることもコーチの不足等もあるが、子供たちの活躍の場がなくなってしまうように何か方法はないか。

(市長)

市では公共交通で画期的なことを開始した。夜自宅から市民体育館へ行かなきゃいけない、帰日も帰ってこなければならぬというときにどういう制度がありますか。

(企画財政課長)

相乗りタクシーの実証実験を開始した。夜は10時まで予約制で運行。特定市民の方は割引がある。相乗りが発生しても割引がある。足の無い方の移動手段を確保するため、1/31 まで実証実験を行っている。クラブ活動で足の無い方、保護者が送迎できないときにフォローしていこうという制度。バス運賃に比べれば料金は若干高いですが、その場所まで来てくれるという利点がある。

(市長)

皆さん、相乗りタクシーは知っていますか。3人。実証実験を始める前に広報が足りないですね。特定市民は75歳以上の方、65歳以上で運転免許を持ってない方、18歳未満の方、障害のある方など。タクシーの75%割引、一般の人は相乗りになると2~3割引になる制度。特定市民は一組2人まで、一般の方は5人まで一緒にのれるので、どうやったら安く乗れるか、子供たちもゲームのように考えてほしい。

(委員)

すごい良い制度だと思い登録した。タクシーの台数は増えたのですか。

(企画財政課長)

それ専用ではないが、26 台のタクシーがある。

(委員)

飯山市内だけの運行ですか。

(企画財政課長)

停まる場所、降りる場所は決まっているが、野沢温泉、木島平村も対応している。暮らしやすさや便利さ等も、人口対策として行政として追及していかないとならないし、一方であまりお金をかけないで、というところもある。

(委員)

若いうちに外に出て色々経験するのは大事。飯山に帰ってきたいと思ってもらえる魅力があれば。何を優先するのかは人それぞれだが、飯山で暮らしたいという選択肢が一つでも増えれば理想かなと思う。

(委員)

農業の後継者がいない。飯山市の農業が立ち行かなくなる。60代70代が中心。農業をやった

いという若い方が農業をできる仕組みがあれば。泉台小学校を移住者の田畑にしたり、住んだり、地域の方との交流の場にしたりできれば。就農するにもお金がかかるので補助金があれば良い。農業機械はとても高いので。国の補助金もあるが、大きな機械を買わないと出ないので。

(委員)

飯山は農業と観光に特化しないと。工業もあるが、近接した他市の工場団地には勝てないので力を入れるなら農業と観光。農業に関しては次の時代を担う、最低限必要な人員を決めておいて増やすのではなくて次の人を支えていく、次の人にブリッジしていくという長い期間でコントロールしなきゃいけない。行政でメリットを出していく。農業も行政も金融も維持が精いっぱい。DXやAI等で人は増えていかないはず。農業は大事で、守っていかなきゃいけないブランドもある。一次産業が後継者不足で今悲鳴を上げている。消えていくのはマイナスでしかない。個人個人の経済的な活動だけでは無理がある。

(委員)

直売所の会員は 580 名程。直売所の年間の売り上げが上がっていることから農家の方の売り上げも上がっていると思われる。地元農家のやりがいもあがっているのではないかな。若い方も商品開発したりと、道の駅でも積極的に扱っている。若い世代が減っているところで、今住んでいる方を留める、U ターンの人を増やす、I ターンの人を増やすこと。地元の家があり畑がある人は出ていきたくても出ていけない。若い人は出ていきやすい。若い世代が飯山に住み続けたいと思える施策を強化していただければ。

(市長)

所得の上がる農業をやるのが大事だし、60代になって楽しみながら農業をやることも大事。自分で作ったお米を子供たちに送って喜びにしている人も大事。新しい作物を作るのも大事。飯山市の花農家は400種類の花を作っている。多品種の中からいいものを見つけ出して、他にないものを高く売ることができる。長野市のヘーゼルナッツも数年で栽培者が大幅に増えた。農業が栄えている町が栄えている。南魚沼もふるさと納税で元気が良い。雪室で保存したコシヒカリという付加価値をつけている。

(委員)

人の集まる場所作りが大事。新幹線駅があるのに人口が減って、駅前の開発も進んでいない。地方の新幹線駅がない地域でも駅前に図書館を作って、文化を起点として発信したり移住や起業の相談窓口をつくったりという小さな自治体もある。利点がたくさんあるので、それを活かすための拠点づくりをして、情報発信も弱い部分もあるので発信力を磨く。このままの人口で推移していった場合、今生まれた子が大人になるとき、20代比がかなり低くなる。全国的に人口減のなか、大学でもどう長野県の教師を確保するか、長野県で中山間地の教育を維持していく等しているが、どうしても人口は減っていくので最小限の人員でどう維持していくのか考えていかなければならない。どう飯山市の機能を維持するのか。暮らしてきた歴史等もあり難しいが、集約化も考えていかなければならない時もあるかもしれないので、農業産業色々なものを含めて考えて維持を考えるのと同時に減少もシュミレーションしていく必要がある。新規で飯山市に移住される方の支援も大事だが、現状いる方々への支援、現行の方に新しい方をつなげる支援も大事かなと思う。子供の数が少なく教員の確保も難しいことから義務教育学校が増えている。地域を巻き込みながら学校づくりをしている地域もあるので参考になると思う。

(市長)

課題はたくさんあってこれを重点化しようといってもうまくできるわけではないので全体的な視点を持ちながら起きてくる事案にどう対応していくかというのが現状。熊問題等の総合計画策定時では全く想定していなかったものが起きている。

(委員)

長野市から飯山市に来たが、飯山市はとて素晴らしいところだし好き。コンパクトだし落ち着くし、中野まで行けば何でもそうし、飯山市内だけでも生活に困ることはない。友人に飯山に嫁に来なよ、と言ってもやはり問題は雪。雪は飯山市の良いところでもあり課題でもある。飯山を好きな方が語り合う場があれば新しい視点が生まれると思う。町エリアは除雪もしっかりしているし住んでいて困ることはない。

(委員)

雪深いところが良いと言ってくれるリピーターのお客さんも多い。住みたいと言ってくれる人もいる。野沢や白馬のような観光地としてではなく、地域として住みたいと言ってくれる人もいる。いきなり移住は無理でも、短期滞在プログラムのようにお試しで住める部屋、地元の人が農作業しているところとか地元の暮らしを見ながら滞在できる所が戸狩エリアでもあると思う。民宿街も高齢化して家が空くと外国人の方を買われてしまう。今は戸狩が好きな外国の方ばかりだから良いが、今後売買が広まった時に今の戸狩の風景、日本の里山の風景や外国人があまりいないスキー場が好きで来てくれている日本のお客さんが離れて行ってしまうのではないかと心配している。空いた民宿等を市でおさえて、滞在施設として利用していただくとか、家のすぐそばにも地域おこし協力隊の方とかとスキーのチームの方たちが長期滞在して、夏は農業を手伝い、冬はスキーで戸狩を楽しみながら滞在していてとても素敵なことだと思う。そういう人たちが使える施設が増えると良いと思う。仕事行く前にスキーを楽しむというライフスタイルの方も周りにいるし、住んでみないと分からない部分もあるので。

(市長)

土地を投資対象として転売している外国人もたくさんいて、土地価格が上昇すると周りの地価も高くなってしまいます。斑尾では規制をかける計画を進めている。

(委員)

地元の人が住みにくくなると困る。地元の子が気軽にスキーに行けなくなっている。地元のスキー場に気軽に行ける環境、せっかくスキー場の近くに住んでいるのだからそこで生まれた子はもっとスキーをしようよ。そこでスキーや雪を知っていると、大人になっても雪が邪魔なものではなく、スキーに関する商売等に就いたりとか、いったん外に出ても週末とかだけでもスキーに関わるようになる。まったくスキーに関わらないと雪はただ邪魔なものになってしまう。

(市長)

雪は邪魔なものではなくて楽しいものだと思ってほしい。この夏、大阪へ雪を20トン持って行った。親子連れで4,200人の来場があり、雪に慣れていない子たちの喜び方は大変すごいものおだった。大阪での飯山市の認知率は1桁%。無限の潜在的な需要が感じられた。インバウンドでリフト券が高額になり、日本の修学旅行生や中間層が気軽に行けなくなって見捨てられてしまって良いのか。インバウンドに振り回されていけないが、インバウンドにも対応していかないといけない。

この委員会で出た意見は、次年度の予算要求に反映させるつもりでいます。その代わり苦しい市の事情も分かっていたらいい。この委員会は大事なものですのでよろしくお願いします。

7 その他

次回の会議で委員長を互選していただく予定。次回は11月 28 日(金)を予定しています。

8 閉 会